

NPO法人地域活性化支援センターが少子化対策などを狙いに選定している「恋人の聖地」に、県内からは初めて、笠間市が「陶芸の里かさま」として選定された。1日、新たに選定された笠間など7カ所を含めると、恋人の聖地は全国に103カ所。市は「今後、このブランド力を生かして結婚支援や聖地間の連携事業に取り組み、交流人口の拡大や定住化促進につなげていきたい」としている。

市などによると、「恋人の聖地」プロジェクトは2006年に始まった。プロポーズする場所にふさわしい地域のシンボリックな観光施設などを対象に、各界の著名人をつくる選定委員会が選定しており、これまでに六本木ヒルズ展望台（東京）、神戸ハーバーランド（兵庫）、ハウステン

## 県内初「恋人の聖地」

# プロポーズは笠間で

### 少子化対策、NPOが選定

ボス（長崎）などが選ばれている。

市は定住化促進の一環で、先月、今回選定に申請。ファッションデザイナーの桂由美さん、華道家の假屋崎省吾さん、タレントの早見優さんら4人の選定委員の審査を受け、那須高原（栃木）、軽井沢（長野）などとともに新たに選定された。笠間は関東最古の焼き物の里で、笠間稲荷神社、笠間工芸の丘などの観光資源に恵まれ、年間300万人が訪れる県内有数の観光地。「陶芸の里」で選定されるのは、全国で初めてという。笠間のギャラリーロード沿いにあるカフェ&ギャラリー「せらづい」の



## 交流・定住促進に期待

東京・銀座の真珠・宝飾店がクリスマススイイベントで使った御影石製の「ラブ・チェア」を看板にしているカフェ&ギャラリー「せらづい」は笠間市最上二郎店長は「最近、通りにおしゃれなカフェなどが増え、笠間で陶芸体験を楽しむ若いカップルも多い」と選定に納得の表情。同店では、笠間出身の石彫作家が手掛けたハート型のいす「ラブ・チェア」を店の看板にアレンジしており、「写真撮っていくカップルもいる」という。オーナーで、洋画家の川俣洋子さんは「街が活気づけば」と期待を寄せている。

（澤畑和宏）